



新田 寛之(にいたひろゆき)議員

一問一答

住宅防音工事について

◆防音建具機能復旧工事について

Q 予算推移はどうか。

A 住宅防音工事は、住宅の壁や天井などを防音仕様にする本体工事と、本体工事施工後10年以上経過して経年劣化した建具や空調を取り替える復旧工事に分けられる。小松基地周辺の住宅防音工事の当初予算は、平成27年度が6億円、28年度が6億8千万円、29年度が7億8千万円と増えてきている。

Q 待機期間が改善、短縮されていない。状況はどうか。

A 健康に影響のある緊急度の高いエアコンを更新する空調復旧工事を優先したことから、その待機期間は1年程度と大幅に改善されたが、建具の復旧工事については、数年待ちの状態が続いている。待機期間を一刻も早く解消するため、防衛施設周辺整備全国協議会等と連携し、防衛省に対して十分な予算確保を要望している。近畿中部防衛局は来年度も予算の増額に努め、建具復旧工事の待機期間について、これまでの遅れを取り戻したいとのことである。

◆地域おこし推進費について

Q 地域おこし協力隊とは。また県内各市町での活動は。

A 総務省が地方創生の一環として三大都市圏や政令指定都市から地方へ定住あるいは移住を促し、そこで起業し、地域おこしを手伝うというものであり、我々が気づかない多様な視点から地域おこしを助けてくれる制度である。平成28年度は、県内6市5町36名が、総務省の特別交付税対象で採用され、観光の誘致や障害者の支援、地場産品のPR等の地域の活性化に寄与する活動を行っている。

Q 本市でのコンセプトや活動エリアは。

A 南部里山エリアの地域資源と魅力を若者による地域おこしで未来につなげるというコンセプト「P.A.S THE B.A.T.O.N」をコンセプトとしている。今回の地域については、南部エリアを限定している。

Q さらに増員やエリア拡大の考えは。

A 今回の活動内容を見ながら、増員やエリア拡大を考えていきたい。



木下 裕介(きのしたひろゆき)議員

一問一答

骨髄バンクドナーへ支援を！

◆新卒採用について

Q 小松市が求める職員像は。

A 小松市への愛着、思い、小松の未来を切り開く気概を持った職員を求めている。その上で、プロとしての知識と技量を持ち、市民の先頭に立つて行動する職員を職員像としている。

Q 市職員の仕事内容を伝える為、就職説明会を開催してはどうか。

A 採用2年前後の職員による市の業務内容の紹介等をした「先輩の声」を作成し、ホームページに掲載している。また、土木技術職の募集では、関係大学の就職支援担当部門を訪問し、受験を呼びかけている。

Q ネットを利用して受験申し込みの手続きができる電子申請を導入してはどうか。

A 受験者の利便性向上にはつながるが、本人の手書きの書類は、意欲や誠実さを知る上で有効であることから、当面は、手書きによる申込書の受付と考えている。

◆骨髄バンクドナーの登録と支援の推進について

Q 骨髄バンク登録に対する周知と普及への取り組みについて。

A 県では、移動献血にあわせて骨髄バンク登録事業が実施されている。市では、県に協力し、ホームページの掲載やポスター掲示等を行っている。

Q 教育現場への働きかけについて。

A 骨髄バンクやその他、臓器移植、がん等に関する教育の前提として、児童生徒の命を大切にすることが第一に挙げられている。小中学校、市立高校においては、命の尊さを考える場を設けている。

Q ドナー支援助成制度の導入を提案するが見解は。

A 県とともに、企業、団体、大学等へドナー休暇制度の創設を呼びかけ、啓発普及に努めていきたい。

◆図書館と空とも絵本館の連携について

Q 市立図書館で登録したカードは、空とも絵本館では使用できない。利便性向上を目指し、カード1枚ですべての図書施設が利用できないか。

A それぞれの館の目的や特色に違いはあるが、利便性の向上を目指し、システム等を改善していく方向で検討している。



井田 秀喜(いだひでき)議員

一問一答

3校統合後の旧校舎利活用について

◆小中一貫教育(3校統合)

Q 統合後、各校に対してこれまで頂いた寄贈品や卒業写真、思い出の品等はどうなるのか。

A 学校の中にスペースを準備し、そこで大事にさせていただきたいと考えている。

Q 西尾小学校は、国道416号線沿いに立地し、周辺には西保キヤンプ場、尾小屋鉱山資料館、大倉岳高原スキー場等、自然に囲まれた素晴らしい環境にあり、民間投資による酒蔵の建設も進んでいる。金野小学校は、現在、造成中の正蓮寺の産業団地、(仮称)エコロジーパークこまつ・クリーンセンターの建設も行われており、国道8号線へのアクセスもよく、両校とも道路環境に優れている。また、耐震補強も完了しており、今後の利活用が注目される。このまま市の管理財産として維持していくのか、また民間企業や地域の要望に応じて活用していくのか、今後の利用計画を示せ。

A 体育館とグラウンドについては当面の間、地域スポーツや地域



松東校下で頑張る子供達

行事など住民交流活動等の場所として維持していきたい。避難場所など地域機能の役割を果たす施設として継続が必要であると考えている。その他の校舎部分については、市の関係部局等と連携し、開校までの3年間で、地域の皆様の意見を聞き、活性化につながるよう十分に検討していきたい。

Q 今後3年間については、教育委員会が管理していくのか。

A 3年間の管理には、教育委員会も当然入るが、活用は市当局と考えていくということで連携をとっていききたい。



浅村 起嘉(あさむらきよし)議員

一問一答

小松の「学び」について

◆公立小松大学について

Q 大学により高校生の学びにどんな価値ができるか。

A 通学しながら研究施設が見られ、英語カフェや自習室など勉強に集中する場所を提供できる。

Q 市民の学びの拠点としての公開講座や施設利用については。

A 市民大学講座的スタイルで多くの人に学んでいただく。図書館や末広キャンパスの体にいいカフェテリアなどを市民開放する。

◆小中学校での学びについて

Q 学力学習状況調査での学習指導改善に関して小松市の取り組みは。

A わかる授業プロジェクトを推進しての授業改善と、児童生徒が主体的に活動できる授業を行う。児童と教師が交流する時間を設け、学習意欲の高まりにつなげている。

Q 教職員勤務時間調査の結果、勤務の状況と今後の方策は。

A 時間外勤務月80時間超が小学校で2割、中学校で5割を超えており、業務アシスタント等の新たな外部人材活用や出勤管理システムの導入を検討している。



ユニバーサルデザインのタクシー

Q 来年度からの道徳教科書の採択の流れは。開かれた採択に向けた傍聴を求める声も多い。

A 研究員による研究報告書等をもとに採択委員会で選定し教育委員会会議において採択した。

◆これからのタクシーについて

Q 車両が車いすも入るユニバーサルデザインのものにかかわることだが小松市の状況は。

A タクシー事業者が9台保有している。他に福祉有償車両が14台ある。

Q 増やすための助成やユニバーサルドライバー育成の考えは。

A 国の補助制度を活用していただく。また、心のバリアフリー研修を継続的に開催する。

予算決算常任委員会総括質疑

平成29年度9月補正予算

会派自民

表 靖二委員

◆栗津駅西側線整備費

Q 栗津駅西側線整備費2790万円が計上されているが、概要及び現在までの進捗状況について問う。

A 平成25年度～29年度まで整備を行っていく予定で、道路幅員9.5m、延長は今回と区画整理区間を合わせ546mである。

今年7月にJR貨物と用地協議が合意に至り、現在、JR貨物が線路撤去を開始している。昨年度から繰り越した道路改良工事は、線路撤去後の10月より着手し年内完成予定であり、残り来年3月を完成予定としている。

Q 来春4月から公立小松大学が開学予定であり、栗津駅西側線整備事業は完了目前にある。栗津駅西側線の担う役割や機能は大きいと思うが、如何に考えているか問う。

A 南部、串工業団地を經由し小松空港へつながる交流機能を持つ重要なルートである。また、公立小松大学の学生のまちとして地域に賑わいをもたらすと考えている。

Q 栗津工場正門の種馬所踏切の拡幅改良時に井戸を掘っている。駅西側線の消雪装置の設置については、十分可能性のある事柄であると考えるが、如何か。

A 既存の修繕工事を重点的にやっているが、賑わいの状況等を見極めて検討していきたい。

Q 駅西側の部分にJR関連と民間の未利用地が約1ha余りある。この有効利用については、駅西広場、駅東西間の自由通路の開設と併せ、重要な課題であると考え。温浴施設などの誘致と駐車場の確保について問う。

A JR貨物や民間企業の意見を聞き、官民連携での活用を検討している。駐車場については、交通状況や駅の利用状況を見据え考えしていきたい。

高野哲郎委員

◆公立小松大学について

Q 公立小松大学施設整備費670万円の内容と財源は。

A 栗津キャンパスとなる小松短期大学の校舎を一部改修するもので、財源は一般財源である。

Q 公立小松大学開学準備費3600万円の内容と財源は。

A 図書整備、学生便覧の作成等であり、財源は入学検定料と寄附金を予定している。

Q 開学への初期投資の総額は、約20億円を予定している。

A 金沢には「学生応援ガイドブック」がある。新しく小松に住む事となる学生の皆様に一目でわかるような情報ツールが必要と考えるが、市の考えは。

A SNS等を積極的に活用し、きめ細かな情報発信に努めたい。

平成28年度決算

会派自民

表 靖二委員

◆定住促進制度について

Q 8年余り実施しているが、決算額及びこれまでの実績について問う。

A 平成28年度実績で8281万9千円である。制度がスタートした平成21年9月から平成28年度までで1304件、4億6963万7千円の助成であった。

Q 転出入の数字についても併せて問う。

A 平成28年度の転入者は3775人に対し、転出者は3508人と267人の社会動態増となっている。

Q 県内では小松市がいち早く定住支援制度の本格導入を図ったと聞くが、制度の拡充についての考えを

問う。

A 優遇金利の適用が可能となる住宅金融支援機構との連携等を予定している。

◆サイエンスヒルズこまつ「ひとものづくり科学館」について

Q 平成28年度の有料入館者の実績及び収支について問う。

A 有料入館者は約5万4千人であった。また収入が約9700万円、支出は約1億1800万円であった。

Q 平成28年度から教育委員会に所管換えになったが、私は27年12月議会でこのことを提言している。そこで、学校長等のOBを活用し、学校等の団体利用を積極的に進めるべきであると考え、28年度の実績は如何か。

A 平成28年度の小中学校の利用は、104団体、約4700人で、前年度から3.4倍の増となった。

Q 富山県や福井県にサイエンスヒルズと同趣旨の施設はないように思われるが、働きかけをしてはどうか。

A 事業については具体的に考えていきたい。

Q 施設の特徴的なものとしてラボがある。科学を体験していくこのラボの規模及び支援体制について問う。

A ミラクルラボ、フューチャラボとも150㎡で、最大収容人員はともに40名である。高い専門性を有するサイエンスコーディネーター2名等が指導にあたっている。

Q ラボの平成28年度利用人数を問う。

A 延べ約1万1千人であった。

Q プログラミング教育の内容及び国の考え方、本市の取り組みについて問う。

A プログラミング体験を通し、論理的な思考を育むこと等を狙いとしており、平成32年度から小学校で必修化される。サイエンスヒルズでは、レゴの教育用ロボットを活用した教室を行っている。

Q プログラミング教室について、平成28年度の実績と、これらを支える人的支援体制について問う。

A 個人向けで58教室、約1100人、学校団体向けは16校、約700人の利用であった。サイエンスコーディネーター等が支援している。

Q 今後の在り方について、将来を担う人材育成の拠点として考えるなら、年間2千万円強の一般財源からの持ち出しは高いものではないと考える。見解を問う。

A 理科、科学の拠点施設として、その役割を果たしていきたい。

高野哲郎委員

◆各種協議会について

Q ワーク・ライフ・バランス推進費280万円余について、現在の取り組み状況は。

A 協議会を設置し、意見交換等を行っている。

Q 皆様からのご意見はどのように市政に活かされているのか。

A 推進政策に反映していく。

Q やさしいまちづくり推進費(3次)322万円余について、内容とその主な取り組みは。

A やさしいまちづくり推進会議の開催、おもいやり駐車場整備等を行った。

Q 市政にどのように活かされているのか。

A 会議結果を提言書として取りまとめ、市長に提出した。

◆生活路線バス運行補助金

Q 現在のバスの状況は。赤字路線の本数、年間利用者数とその増減は。

A 17路線中、16路線が赤字である。平成28年度利用者数は延べ58万人余で、増加傾向である。

Q バス運行に対する小松市の負担はいくらか。

A 平成28年度の実質負担額は、1億844万3千円である。

Q 効率的な公共交通への見直しが必要と考えるが、現時点で小松市のバスに対する考えをお聞きたい。

A 高齢者や高校生の移動手段の確保だけでなく、健康増進や地域の活性化等、まちづくりにおいて多くの役割を担っており、今後も維持していきたい。

自民党こまつ

井田秀喜委員

◆本社機能等企業立地助成費

Q 平成27年度より増額決算となっている。その要因は。

A 平成28年度該当の企業の設備投資意欲が旺盛であった結果である。

Q 4件助成の内訳は。

A 東部産業振興団地の化学工業製品製造業に約8千万円、小松工業団地の鉄鋼業に1200万円、金属製品製造業に8300万円、矢田野工業団地の鋼材製造業に約1200万円の助成をした。

Q 本社機能等企業立地助成費の名称変更としては。

A 今後、検討していきたい。

◆安宅新地区土地区画整理調査費

Q 事業目的は。

A 小松空港に隣接した遊休地32・2haを土地区画整理の手法を活用し、新たなビジネスの交流拠点等として土地利用を図っていく。

Q 当初の計画通り、事業は進んでいるのか。

A 現在、土地区画整理事業立ち上げのため、順次同意を得ているところである。一日も早い立ち上げに努めていきたい。

宮西健吉委員

◆小松産業団地造成工事について

Q 市道正蓮寺産業団地線5174万6千円について、この場所は。

A 県道大野・八幡線から入り、石川県九谷焼技術センター南側、小松市シルバー人材センターの北側を経て、産業団地へ接続するルートである。

Q 分譲地は何haか。

A 約7haである。

Q 工事請負契約の一部変更の理由は。

A 着工前にボーリング精査をした結果、改良範囲となる岩盤が推定より少し低い位置にあることが判明し、改良範囲が拡大したこと等である。本工事は、一般の構造物施工と異なり、広範囲の山林造成のため、施工時の現地精査により明らかになったことに伴う変更である。

Q 工事その1(シルバー人材センター1側)の変更増額は183万円余りで1%の誤差。その2(シルバー人材センター奥の計画地東側)は2149万円余りで誤差が10%強である。どんな調査、測量をしたのか。どんな設計をしたのか。

A 航空測量を行った。ただ、大きな木が多くあったため、多少修正をする必要が出てくる。

Q 設計コンサル会社の設計ミスは。